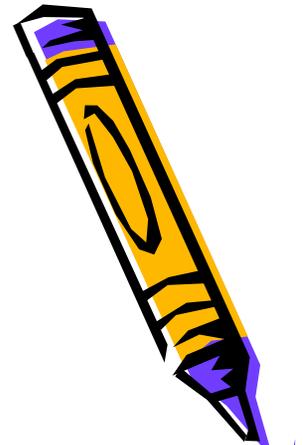


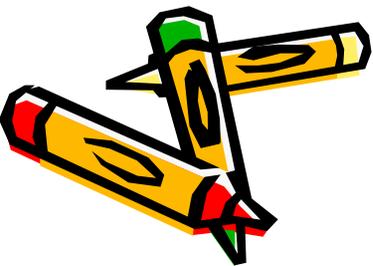
ジャーナリズム史

アメリカのジャーナリズム(3)
イエロージャーナリズムから20世紀へ



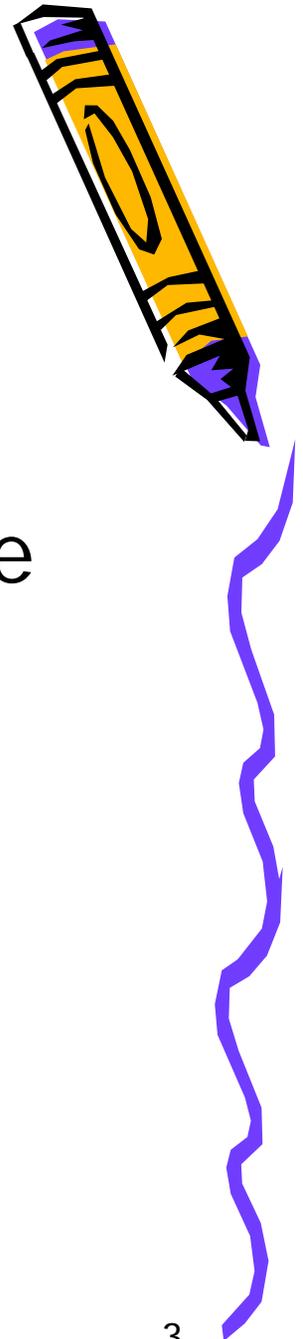
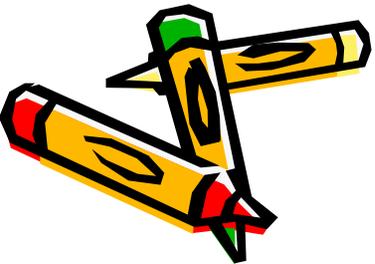


1. 植民地新聞
2. 政治(政党)新聞からペニープレス時代へ
3. 南北戦争前後の新聞
4. イエロー・ジャーナリズムの始まり
5. J. プューリッツアーとW. R. ハースト
6. 20世紀の新聞
7. 通信社の出現
8. 世界大戦と新聞



アメリカのメディア王

- Henry R.Luce(1898-1967) 米 Time
- Edward W . Scripps (1854-1920)
UPI
- Bill Gates: Microsoft
- Steven Case



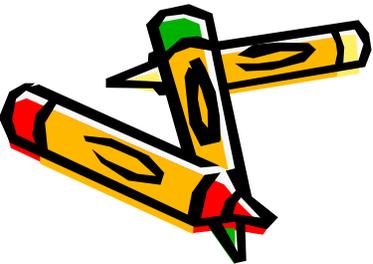
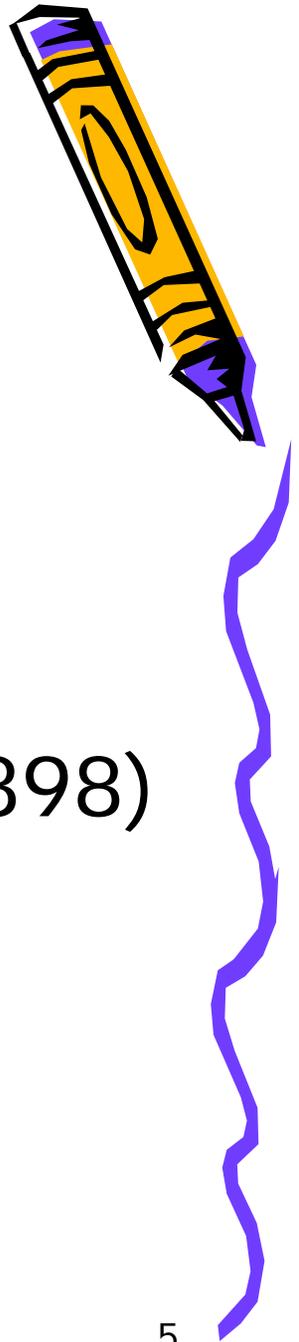
William Randolph Hearst

- 1863 カリフォルニア生まれ
- 1887 24歳のとき、父の経営するSan Francisco Examinerを引き継ぐ
- 「読者が新聞を開いたとたんに“たまげた”と驚きの声をあげるような紙面をつくる」
- Examiner 1887年 = 1.5 万部 1年内で2倍の3万部 1893年 = 7.2 万部
- NY進出: 経営不振のMorning Journal を18万ドルで買収



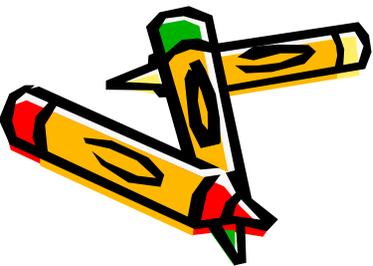
W. R. Hearst (1863-1951)

- * Examiner, NY Morning Journal
- yellow journalism
- Please Remain. Your Furnish the Picture and I 'll Furnish the war.(1898)



Yellow journalism (1)

- 『ワールド』からRichard F.Outcault「ホーガン路地裏」をそのまま引き抜く “イエローキッド (yellow Kid)” 黄色い上っ張りを着たやんちゃ坊主
- センセーショナルな紙面作り、“えげつない”新聞合戦を始めた
- “イエロー・ジャーナリズム”



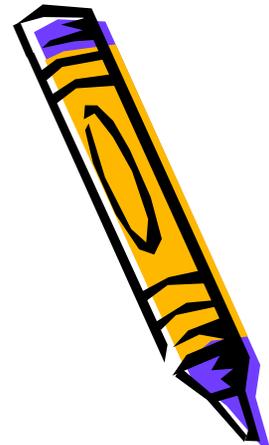
Yellow Journalism(2)

- 米西戦争(1898) - 「戦争は私がつくる」

You furnish the pictures and I'll furnish the war.

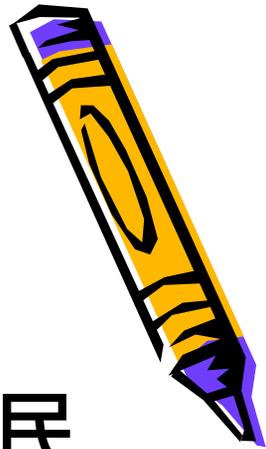
米国内の同情高まる マッキンレー大統領を中傷する記事をスッパ抜く 反スペイン感情を高める メイン号

- 1898年2月 メイン号爆発事件 「これは戦争なんだから」 原因は不明
- ワールドは500万部、ジャーナルは100万部売れた イエロージャーナリズムの煽り



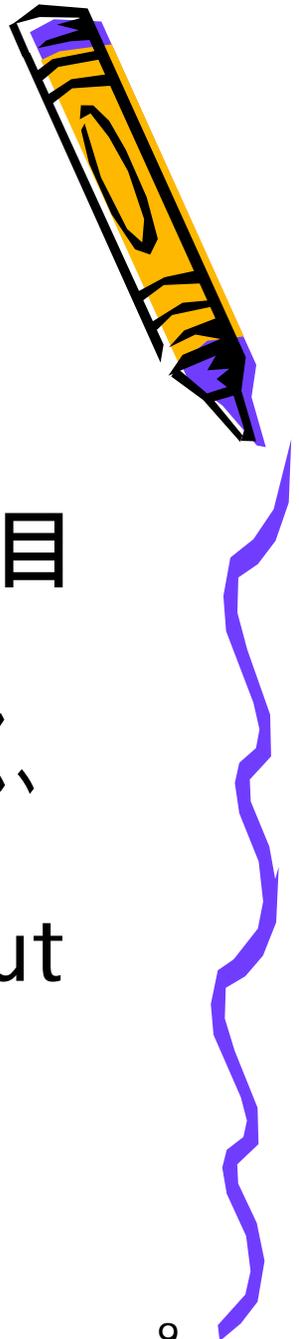
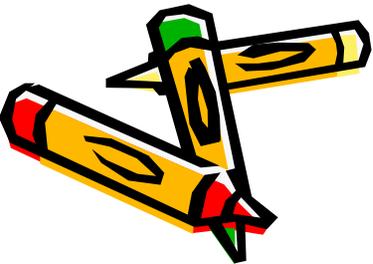
Joseph Pulitzer:1841-1911

- 1847.4.10 ハンガリー生まれ 1864:移民
- 1865 セントルイスの独語新聞の記者に
- 1878 ~~破産した~~St. Louis Despatch を買収 ~~たった2,500ドル~~



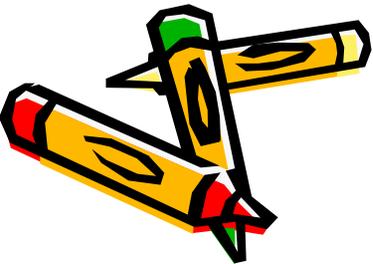
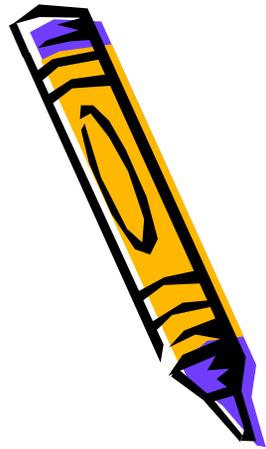
A.Ochs: NY Times

- 1896年 Adolph Ochs (1858 ~)
- センセーショナルリズムと全く逆の方向を目指す
- 「恐れることなく、しかもおもねることなく、公平な立場でニュースを報道する」
- to give the news impartially, without fear or favor



1870年と1900年の比較

- (1) 新聞紙数は376 紙から2,326 紙へと6倍増
 - (2) 発行部数は350 万から1,500 万部と4倍増
 - (3) 広告収入は1,600 万ドルから9,500 万ドルと6倍増
- 夕刊紙の激増 日曜紙の進出



20世紀の新聞

- 20世紀初頭 2,226 紙 1916年2,600 紙(これがピーク)
- [増加の背景]
- 通信社、特信サービス・シンジケートの発達
- チェーン所有の発展

